The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	松山先生の大なる賜
Author(s)	小松, 熊之助
Citation	懐徳. 1927, 6, p. 110-111
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88774
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

たのであつたが、今はもう先生の悠容たる講義振りを見られなくなつてしまつたのも悲しい。人格識見共に間然するところなき先生温厚其物の如き先生孜々として研究に沒頭された先生、懷德堂の發達に終始盡された先生、今やなし。先生を慕ふ心は甚だ切である。せめて博士論文北宋五子哲學の速かに公刊される日を待ちたい。

松山先生の大なる賜

小松熊之助

日曜朝講後正午迄の學習は小生が頗利益を受けたと信じて居る、初小生は松山先生から道をこそ聞け、知らぬ字を敎へて戴くなどとはあまり期待すべきことゝも思はなかつたが、然し小生の訓詁癖と質問病とはいつのまにか先生を字引敎師のやうに待遇しだした、先生の寬大なる之に對して少しも御厭ひなく、寺小屋の師匠が『いろは』を敎へるにも增した御面倒を御覽下さつたのである、此無遠慮は定日講義の筵に於てもそうであつたが、主に上記日曜朝講後の學習に於て行はれた、御蔭樣で多少讀書力が付いた樣な氣がしはじめると、少し書物を讀んで見る氣が起り、書物を少し手に掛けると道を知るに於て多少の利益はあつたと確信する、小生が先生より受けたる大なる賜といふのは此『字を敎はつたこと』である、固より先生の全人格的御敎育を受けることによりて大に益する所があつたことは今更言ふまでもないことであるが、先生が字引敎師に爲つて

下さつた和光同塵的な御態度は小生に取つて頗有難き賜である、世間動もすると『字句なんかどつかで聞け俺は道を説くんじや』といふ聲があるやうである、善く行けば誠に結構であらうが、まづく行くと出鱈目の矛盾盡しで濟むことになる、道は聞かなくつたつて宇宙に滿ちとる。之を聞き見る手段が種々ある內で、讀書はその一つの方法である、聽講話も一つの方法である。小生は前者を安全率の多い方、後者を少い方と見る、どうも出鱈目の矛盾盡しに終る虞が多いと思ふ、而して讀書をするがためには何分讀書力がなければ出來ない、讀書力を付けて下さる先生は其恩大なりといふべきである。先生の鄕黨第十的敎育が小生を益する所多かつた事は前已に書いたが今一度書かなくては氣が濟まぬから再記する、言ふ迄もなく、此は道を見る手段中最上なものである。

松山先生の遺訓

ねもごろにさづけたまひしみをしへを
たふとみいかしみいやまひまつる

此は先生の葬を送るときの感想なり、而して其『ミヲシヘ』の數多き中にて最小生の印象深きものは『正義を好むの情と不義を惡むの情とは同一に非ず、前者は完全なれども後者は無缺とは云ひ難し』てふ御敎訓なり、此二つの情は兎角混同され易く、動もすれば石を玉の如く珍重することを免れ難し、殊に修養の足らぬ小生輩にありては此弊最多く自ら苦しみ他を怒らせ、不

小松熊之助